720×500

項目	特記事項
⑦ 砂利地業	材料 ※切込砂利または切込砕石 ※再生クラッシャラン（直接基礎下を除く） (4.6.2) 厚さ ・図示 ※60mm ・ (4.6.3)
⑧ 捨コンクリート地業	設計基準強度 ※18N/mm2 ・ (6.14.1) スランプ ※15cm ・18cm 厚さ ※50mm ・ (4.6.4) 施工箇所 ※建物内土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く） (4.6.5) ・図示
9 床下防湿層	・ポリエチレンフィルムの厚さ ※0.15mm
鉄筋工事	
① 鉄筋の種類	(5.2.1)(表5.2.1) 種類の記号 / 呼び径(mm) / 使用箇所 ⊙ SD295A / D10～D16 / スラブ、壁、基礎、せん断補強筋 ・SD295B ⊙ SD345 / D19～D25 / 柱梁主筋、壁、基礎 ⊙ SD390 / D29～D32 / 柱梁主筋、壁、基礎 ⊙ SR235 / 13φ以下 / 図示 ⊙ SR295 / 13φ以下 / 図示 ⊙ 溶接閉鎖型せん断補強筋SD295A / D13 / 柱せん断補強筋 ⊙ エポキシ樹脂塗装鉄筋SD295A / D13～D16 / 誘発目地部 ⊙ エポキシ樹脂塗装鉄筋SD345 / D19～D25 / 誘発目地部
② 溶接金網等	規格 ※JIS G 3551 (5.2.2) 種類 ⊙溶接金網 ⊙鉄筋格子 網目の形状，寸法（ 図示 ） 呼び径(mm) （ φ3.2，φ6，D6，D10 ）
③ 鉄筋の継手及び定着	継手 (5.3.4)(表5.3.2)(表5.3.3) 部位 / 継手方法 / 呼び径(mm) 柱，梁の主筋 / ※ガス圧接・重ね継手・機械式継手・溶接継手 / D25,D29,D32 耐力壁の鉄筋 / ※重ね継手 / D13～D25 その他 / ※重ね継手 継手の位置 ※図示 ・配筋標準図による (5.3.4) 先組み工法等で柱及び梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合 ※図示 重ね継手の長さ ※図示 ・5.3.4(c)による (表5.3.2)(5.3.4(c)) 鉄筋の定着の長さ※5.3.4(e)による ○図示 (表5.3.4)(5.3.4(e))
④ 鉄筋のかぶり厚さ	※かぶり厚さは目地底から算定する ・塩害を受けるおそれのある部分等，耐久上不利な箇所のかぶり厚さは下表による (5.3.5) 施工箇所等 / 表5.3.6の値に加える数値(mm) 柱，梁，壁及び庇等の外気に接する打増し面 / ※10 ・軽量コンクリートで土に接する部分の最小かぶり厚さ (5.3.5) 表5.3.6の値に加える数値(mm)（ ） ・機械式継手及び溶接継手の場合の鉄筋相互のあき ※図示 (5.3.5)
⑤ 各部の配筋	※ 図 示 (5.3.7)
⑥ 圧接完了後の試験	試験方法 ※超音波探傷試験 ・引張試験 (5.4.9)
コンクリート工事	
① コンクリートの種類・強度・スランプ	⊙普通コンクリート (6.2.1)(6.2.2)(6.2.4)(表6.2.2) 設計基準強度Fc(N/mm2) / スランプ(cm) / 適用箇所 / 単位水量上限 ※21 / ・15 ・18 / / / ⊙18 / ⊙15 ・18 / 防水押え，機械基礎，嵩上げコン，土間コン / 180kg/? ⊙24 / ⊙15 ・18 / 付属棟1FL以下の下部躯体 / 180kg/? ⊙24 / ・15 ○8 / 付属棟上部躯体 / 180kg/? ⊙27 / ⊙15 ・18 / 免震層より下部の躯体 / 180kg/? ⊙30 / ・15 ○8 / 免震層より上部の躯体 / 180kg/? ⊙高強度コンクリート 設計基準強度Fc(N/mm2) / スランプ(cm) / 適用箇所 / 単位水量上限 ⊙60 / フロー60cm / 免震部材基礎柱 / / ・軽量コンクリート 設計基準強度Fc(N/mm2) / スランプ(cm) / 適用箇所 ※21 / ・15 ・18 / / ・18 / ・15 ・18 / / コンクリートの類別 ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 (6.2.1)(表6.1.1) 構造体コンクリート強度は，材齢91日において設計基準強度以上とする。なお，工事現場における構造体コンクリート強度の推定は，現場水中養生による材齢28日における管理を基本とし，これを満足しないと想定される場合に，現場封かん養生による材齢28日を超え91日以内の強度を推定する試験を行うものとする。 (H26年3月改定6.2.2) 構造体コンクリート強度の推定試験 (H26年3月改定6.9.5) (a)構造体コンクリート強度の推定試験の判定は，次の(1)又は(2)のいずれかを満足すれば合格とする。 (1)現場水中養生供試体の材齢28日の圧縮強度試験結果から判定する場合は，次を満足すること。 （ⅰ）材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は，1回の試験結果が調合管理強度以上であること。 （ⅱ）材齢28日までの平均気温が20℃未満の場合は，1回の試験結果が設計基準強度に3N/mm2を加えた値以上であること (2)現場封かん養生供試体の材齢28日を超え91日以内の圧縮強度試験の1回の試験結果が，設計基準強度に3N/mm2を加えた値以上であれば合格とする。 ただし，セメントの種類が普通ポルトランドセメント以外の場合は，上記に加え，現場封かん養生供試体の材齢28日の圧縮強度試験の1回の試験結果が，設計基準強度に0.7を乗じた値 以上であることを確認すること。 (b)不合格となった場合は，監督職員の承諾を受け，JIS A 1107（コンクリートからのコアの採取方法及び圧縮強度試験方法）又はその他の適切な試験方法により構造体の強度を確認し，必要な処置について，監督職員の指示を受ける。
② セメントの種類	※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1)(6.13.2) ・高炉セメントB種 （適用箇所： ） ・フライアッシュセメントB種（適用箇所： ）

項目	特記事項
③ 骨材	アルカリシリカ反応性による区分 ※A ・B (6.3.1)
④ 混和材料	⊙混和剤 ※AE剤又はAE減水剤標準形（JIS A 6204） (6.3.1) ・高性能AE減水剤標準形 （JIS A 6204） ・ ・混和剤 ※フライアッシュ（・種・Ⅱ種・Ⅳ種） （JIS A 6201） ・コンクリート用高炉スラグ微粉末 （JIS A 6206） ・コンクリート用シリカフューム （JIS A 6207） ・コンクリート用膨張材 （JIS A 6202） ・
⑤ 打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地	打継ぎ目地の寸法 ※9.7.3(a)(1)による・図示 (6.6.3)(6.8.2)(9.7.3) ひび割れ誘発目地の位置 ※図示による (6.8.2) ひび割れ誘発目地の形状及び寸法 ※9.7.3(a)(1)による・図示 (6.8.2)(9.7.3)
⑥ 打増し厚さ	外部に面するコンクリート打放し仕上げの打増し厚さ(mm) (6.8.2) 外壁 ※図示 ・20 ・25 軒天 ※図示 ・10 ・15 ・20 その他 ※図示 ・20
⑦ コンクリートの仕上り	※せき板の材料として合板を用いる場合 (6.2.5)(6.8.3)(表6.2.4) 種別 / 厚さ(mm) / 施工箇所 ⊙A種 / ※12 / 図示 ⊙B種 / ※12 / 図示 ⊙C種 / ※12 / 図示 ⊙せき板の材料として合板を用いない場合 材料（ラス型枠（埋戻し部のみ使用可）） 厚さ（ ）
⑧ 床型枠用鋼製デッキプレート	評価名簿による (6.8.3) 使用箇所 / 厚さ / 備考 図示 / 図示 / フラットデッキ SDP1TG(Z12),SGCC(Z12)
9 軽量コンクリート	(6.10.1)(表6.10.1) 種類 / 所要気乾単位容積質量(t/?) / 適用箇所 ・1種 ・2種 / ※表6.10.1による / ※図示
10 無筋コンクリート（捨コンクリートを除く）	(6.14.1) 設計基準強度(N/mm2) / スランプ(cm) / 適用箇所 ※18 / ※15 ・18 / ※6.14.1(e)による ・図示
鉄骨工事	
① 鉄骨製作工場	※「指定性能評価機関」による認定工場 (7.1.3) ⊙Sグレード ○Hグレード ・Mグレード ・Rグレード ・Jグレード ・監督職員の承諾する工場
② 施工管理技術者	適用する（鉄骨製作管理技術者2級以上） (7.1.3)(7.1.4)
③ 鋼材	(7.2.1)(表 7.2.1) 材質 / 形状 / 寸法 / 使用箇所 / 備考 SM490A / 図示 / 図示 / ※図示 / 高炉又は電炉鋼材 SM400A / 図示 / 図示 / ※図示 / 高炉又は電炉鋼材 SN490C / 図示 / 図示 / ※図示 / 高炉又は電炉鋼材 SN490B / 図示 / 図示 / ※図示 / 高炉又は電炉鋼材 SN400A / 図示 / 図示 / ※図示 / 高炉又は電炉鋼材 SN400B / 図示 / 図示 / ※図示 / 高炉又は電炉鋼材 SS400 / 図示 / 図示 / ※図示 / 高炉又は電炉鋼材 SSC400 / 図示 / 図示 / ※図示 / 高炉又は電炉鋼材 TMCP鋼 / 図示 / 図示 / ※図示 / 大臣認定品
④ 高力ボルト	高力ボルトの種類 ⊗トルシア形高力ボルト（S10T） (7.2.2) ・JIS 形高力ボルト（F10T） ⊙溶融亜鉛めっき高力ボルト（F8T相当） 高力ボルトの径 ※図示
⑤ 普通ボルト	普通ボルトの径 ※図示 (7.2.3)(表7.2.3)
⑥ アンカーボルト	⊙構造用アンカーボルトの種類 ・ABR400 ・ABR490 ・ABM400 ・ABM490 ・規格外（ ） ⊙建方用アンカーボルトの種類 ・SS400 ⊙SNR490B ねじの規格等 ※表7.2.3による（セット品を除く）
⑦ ターンバックル	胴の種類 ※割枠式 ・パイプ式 (7.2.6) ボルトの種類 ※羽子板ボルト・両ねじ式 ・アイボルト ねじの呼び ※図示
⑧ デッキプレート	(7.2.7) 適用箇所 / 材質，形状，寸法 / 備考 ・デッキプレート単独の構法 / / JIS G 3352適合品 ・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法 / / JIS G 3352適合品 ⊙床型枠用鋼製デッキプレート / / 耐火認定 ・有り（耐火時間：※図示 ・ ）
⑨ レール及びその付属品	形状及び寸法等 ※図示 ・ (7.2.8)
⑩ 工作一般	高力ボルト，普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離，ボルト間隔，ゲージ等 (7.3.2) ※図示
⑪ 溶接接合	仮組の実施 ・実施する（部位： ） ※実施しない (7.3.10) 溶接技能者への技量付加試験 ○行う ※行わない (7.6.3) 開先の形状 ※図示 ・「鉄骨工事技術指針・工場製作編」による (7.6.4) スカラップの形状 ※図示 (7.6.7) エンドタブ ※切除する ・切除しない 適用箇所 ※見えがかり部 ・図示

項目	特記事項
⑫ 溶接部の試験	⊙超音波探傷試験 (7.6.11) 工場溶接の場合 AOQL ※4.0% ・2.5% 節 / 検査水準 / ※第6水準 代替エンドタブを使用する場合は，全数検査とする 現場溶接の場合 AOQL ※4.0% ・2.5% 代替エンドタブを使用する場合は，全数検査とする ・放射線透過試験 試験箇所（ ） ・マクロ試験（エンドタブ使用） 試験箇所（ ） ⊙超音波探傷試験（抜取率は図示）
⑬ デッキプレートの溶接	※図示 (7.7.8)
⑭ 錆止め塗料の種別	⊙鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る) (7.8.3) ※表18.3.1のA種 ⊙耐火被覆材の接着する面への塗装 適用箇所 ※図示 塗料の種別 ○ 表18.3.1のA種
⑮ 耐火被覆	種類 (7.9.2) ⊙ロックウール吹付け工法（・乾式工法 ○半乾式工法 ・湿式工法） (7.9.4) ・耐火板張り工法 (7.9.5) ・耐火材巻き付け工法 (7.9.6) ・ラス張りモルタル塗り (7.9.7) 所要性能 所要性能 / 適用箇所 ⊙30分 ○1時間 ・○2時間 / 図示 ・30分 ・1時間 ・2時間 /
⑯ アンカーボルトの保持及び埋込み工法	建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種別 ・A種 ※B種 ・C種 (7.10.3)(表7.10.1) 構造用アンカーボルト ※図示 (7.10.3)(7.2.4) ・形状（ ），寸法（ ） アンカーフレーム ※図示 ・形状（ ），寸法（ ） 柱底均しモルタル ※A種（※50mm ・ ） (7.2.9)(7.10.3)(表7.10.2) ・B種（※30mm ・ ） 無収縮モルタルの製造所 評価名簿による 無収縮モルタルの調合等 ※7.2.9(b)による (7.2.9)
⑰ 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合	摩擦面の処理 ※ブラスト処理又はりん酸塩処理 (7.4.2)(7.12.4) ただし，りん酸塩処理とする場合は，すべり耐力等の確認をすべり試験により行うこと。
コンクリートブロック等工事	
1 補強コンクリートブロック造	ブロックの種類 (8.2.2) 断面形状及び圧縮強さによる区分 / 正味厚さ(mm) / モデュール呼び寸法 長さ(mm) / 高さ(mm) / 化粧の有無 / 適用箇所 / 備考 ※空洞ブロック 16 / ・120 ・150 / ※400 ・ / ※200 ・ / ・有 ※無 / / / ・ 各部の配筋 ※図示 (8.2.5)
② コンクリートブロック帳壁及び壁	ブロックの種類 (8.3.2) 断面形状及び圧縮強さによる区分 / 正味厚さ(mm) / モデュール呼び寸法 長さ(mm) / 高さ(mm) / 化粧の有無 / 表8.3.1以外の適用箇所 / 備考 ⊙空洞ブロック 08 / ⊙120 ・150 / ※400 ・ / ※200 ・ / ・有 ※無 / / ⊙ゴミ庫 ・空洞ブロック 16 / ・120 ・150 / ※400 ・ / ※200 ・ / ・有 ※無 / / / ・ 各部の配筋 ※図示 (8.3.3)
③ ALCパネル	材料 (8.4.2.～8.4.6)(表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4) 種類 / 単位荷重(N/m2) / 厚さ(mm) / 耐火性能(時間) / 構法の種別 ⊙外壁パネル / / / / ⊙A種・B種 ⊙間仕切壁パネル / / / / ⊙C種・D種・E種 ・屋根パネル / / / / F種 ・床パネル / / / / 出隅及び入隅のパネル接合部，パネルと他部材との取合い部の目地幅(mm) (8.4.3) ※20 伸縮目地への耐火目地材の充填 ○行う (8.4.3)
④ 押出成形セメント板(ECP)	(8.5.2.～8.5.5)(表8.5.1)(表8.5.2) 種類 / ⊙外壁パネル / ⊙間仕切壁パネル 表面形状 / ※フラットパネル ・デザインパネル(図示) ・タイルベースパネル / ※フラットパネル ・デザインパネル(図示) ・タイルベースパネル 厚さ(mm) / ・50 ○60 / ・50 ○60 工法の種別 / ⊙A種 ・B種 / ・B種 ⊙C種 パネル相互の目地幅 / ※長辺 8mm以上，短辺15mm以上 ・ / ※長辺 8mm以上，短辺15mm以上 ・ パネルの出隅入隅部の目地幅(mm) / ※15 / ※15 耐火性能(時間) / ・0.5 ○1 ・2 / ・0.5 ○1 ・2 耐火構造以外の目地及び隙間の処理 ※パネル製作所の仕様による (8.5.3) パネルの開口の限度 ※図示 (8.5.5) 製造所 評価名簿による
1節 一般事項	
⑤ 8.1.2 耐震・耐風圧性能	追補 a.荷重条件は、「工事概要書 2-2 構造設計条件」による。 b.耐震要求性能は、「工事概要書 2-3 総合耐震クライテリア」によるほか、次による。 1)設計用震度に対して、パネル及び取付け金物等は短期許容応力度以下とし、パネルの破損や脱落、取付け金物の有害な残留ひずみがないものとする。 2)層間変位H/300(ただし最小値12mm、Hは階高)で何ら損傷を生じないものとする。

項目	特記事項
	c.耐風圧性能 1)設計用風圧力に対して、パネル及び取付け金物等は短期許容応力度以下とし、何ら損傷を生じないものとする。
4節 ALCパネル	
⑥	[付加] a.ALCパネルを鉄骨の耐火被覆として用いる場合の耐火性能は、設計図による。 [付加] b.パネル取付け金物の材質・仕上げは次による。 部位 / 材質・仕上げ 外気に接する取付け金物 / ※溶融亜鉛めっきC種(ボルト・ナット類とも) ・パネル製造者の仕様による ・ステンレス（SUS304）
5節 押出成形セメント板(ECP)	
⑦	[付加] a.パネル取付け金物の材質・仕上げは次による。 部位 / 材質・仕上げ 外気に接する取付け金物 / ※溶融亜鉛めっきC種(ボルト・ナット類とも) ・パネル製造者の仕様による ・ステンレス（SUS304） 地下二重壁の取付け金物 / ※溶融亜鉛めっきC種(ボルト・ナット類はステンレス) ・パネル製造者の仕様による ・ステンレス（SUS304）
⑧ 8.5.6 外壁パネル止水工法	追補 a.外壁パネルの止水工法は、次による。 ※ダブルシーリング方式又はパネル製造者の二次止水工法（二次側止水部に、定形ゴム又はシーリングを連続させたもの） ・一重シーリング ・設計図による b.ダブルシーリング方式又はパネル製造者の二次止水工法による場合は、パネル相互の目地のほか、建具等他の部材との取合い部においても止水ラインを連続させる。 c.ダブルシーリング方式とするパネル横使いの縦目地部の中空部小口は、事前にダブルシーリング方式の確実な被着面を確保する処置を行う。ただし、中空部の通気を妨げない機構とする。 d.パネルの目地部分では、浸入水がパネル最下部で外部に排出できる機構とする。
防水工事	
① アスファルト防水	防水層の種別(屋根保護防水) (9.2.2)(表9.2.3～表9.2.6) 種別 / 施工箇所 / 断熱材（断熱工法の場合） / 絶縁用シート / 立上り部の保護 ・A－1 / / 材質： / ※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 / ⊙乾式保護材 ・A－2 / / ※JIS A 9511によるA種押出法ポリスチレンフォーム保温材の保温板3種b(スキンあり) / ・ / ・コンクリート押え ・A－3 / / ・ / ・ / ・れんが押え ⊙B－1 / ゴミ庫 / / / ・ ・B－2 / / / / ・B－3 / / 厚さ(mm)：※25 ・50 ⊙30 / ※フラットヤーンクロス(70g/m²程度) / / ・A1－1 / / / / ・A1－2 / / / / ・A1－3 / / / / ⊙B1－1 / 屋根 / / / ・B1－2 / / / / ・B1－3 / / / / 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9.2.2) ※表9.2.3から表9.2.8による 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9.2.2) ※表9.2.5から表9.2.8による 乾式保護材 ⊙窯業系パネル（・I類 ※II類） ・金属複合板 製造所 評価名簿による 平場の保護コンクリート (9.2.5) こて仕上げ ※水下80mm以上 床タイル張り等 ※水下60mm以上 防水層の種別(屋根露出防水) (9.2.3)(表9.2.7)(表9.2.8) 種別 / 施工箇所 / 断熱材（断熱工法の場合） / 絶縁用シート 種類 / 絶縁用シート 使用量 / 備考 ・D－1 / / 材質： / ※製造所の指定による / ※製造所の指定による / ・D－2 / / ※JIS A 9511によるA種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規格に適合するもの / / ・D－3 / / ・ / / ・D－4 / / 厚さ(mm)：※25 / / ・D1－1 / / / / ・D1－2 / / / / 脱気装置の種類及び設置数量 ※製造所の仕様による (9.2.3) ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※図示 (9.2.4) 防水層の種別(屋内防水) (表9.2.9) 種別 / 施工箇所 / 種別 / 施工箇所 ・E－1 / / ・E－2 / / 保護層 ・設ける（※図示 ・ ） (9.2.3) 押え金物の材質及び形状 ※アルミニウム製，L-30×15×2.0(mm)程度 (9.2.2) 成形伸縮目地材 製造所 評価名簿による (9.2.2) 防水層の下地モルタル塗りの範囲 ・図示 (9.2.4) 屋上排水溝 ○・図示 (9.2.5) アスファルトの種類 ⊙製造者の仕様による防水工事用の低臭低煙型アスファルト
2 改質アスファルトシート防水	防水層の種別 (9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1～表9.3.3) 種別 / 施工箇所 / 断熱材（断熱工法の場合） / 防湿層 / 備考 ・AS－T1 / / 材質： / / / ・AS－T2 / / ※JIS A 9511によるA種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規格に適合するもの / / / ・AS－T3 / / ・ / / / ・AS－T4 / / 厚さ(mm)：※25 / / / ・AS－J2 / / / / / ・AS1－T1 / / / ・設ける / / ・AS1－J1 / / / / / 改質アスファルトシートの種類及び厚さ (9.3.2) ※表9.3.1から表9.3.3による

着工	平成 28年 6 25		
竣工	令和 元年 11 30		
監理			監理 日建・上田特定監理業務等共同企業体
施工			施工 大成・大旺新洋特定建設工事共同企業体

完成図 意-07

日建・上田特定設計委託業務共同企業体

高知市都市建設部公共建築課					
担当	担当	係長	課長補佐	副参事	課長

高知市新庁舎建設工事

特記仕様書 (3)

意 1－5

NO. 0－140004－B